

平成27年11月25日

## 大分県立屋内スポーツ施設設計者選定委員会講評

本プロポーザルは、県立屋内スポーツ施設の整備にあたり、豊かな創造力・設計能力を有する設計者を求める目的で実施されました。提出図書の内容が短く、また敷地条件等の制約が多い中で10者から提案をいただきました。

いずれも意欲溢れる清新な提案をいただき、選定委員会として心から感謝申し上げます。

### (1) 全体講評

課題とした「県立屋内スポーツ施設整備基本方針」を踏まえた敷地内の配置計画、また、スポーツ公園全体として良好な景観を形成する外観等について多様な提案がありました。平常時から大規模大会開催時までの様々な使い方における利便性や安全性の確保に配慮しつつ、工期短縮やライフサイクルコスト縮減に関する積極的な提案が多かったことも全体的な特徴です。また、県産木材の利用についてもバリエーション豊かな提案がなされました。

第1次審査では、工事費、工期、求められる機能等の基本的な条件を満たし、かつ、総合的に優れた5者を選定しました。

第2次審査では、公開によるプレゼンテーションとヒアリングを行い、各委員が提案の内容と応募者の設計理念を深く理解した後、施設の機能性、工期とコストの妥当性、デザインイメージの実現性等について十分に議論を尽くし、最優秀者と次点者を次のように選定しました。

## (2) 個別講評

### ◆ 最優秀者

能勢 修治（株式会社 石本建築事務所）

建設地周辺の環境・景観に配慮し、ドームの巨大なスケールを周辺の里山の緑地になじませていくグラデーションとしての役割を持たせた外観の提案となっています。

アリーナ部分を含めた建物全体が武道場としての品格を備えるとともに「交流の土間」を利用したスポーツ振興に対するユニークな提案もなされ、施設としてのコンセプトが明確なことが特徴となっています。

また、自然採光や通風による自然エネルギー利用に関する合理的な提案もあり、最優秀者としました。

### ◆ 次点者

永廣 正邦（株式会社 梓設計九州支社）

多目的アリーナと武道場との明快な分離やそれぞれ機能の異なる4つの庭の組み合わせによりフレキシブルな運用を可能とする提案となっており、機能的な面で評価されました。

また、照明、空調計画に関する合理的な提案がありましたが、建設地周辺の環境・景観への調和という点において課題があり次点者としました。